

### 秋田県指定史跡

- ・名 称 白岩焼窯跡(しらいわやきかまあと)
- ・所 在 地 仙北市角館町白岩寺後 他
- ・指 定 日 昭和28年10月5日

### 「白岩焼の沿革」

角館町東側の白岩地区にある江戸時代から明治時代までの窯跡です。明和8(1771)年に福島県相馬の陶工松本運七が窯を開き、本格的な焼物づくりが開始された。青白色釉の日用雑貨が中心で、幕末の最盛期には6基の窯が操業されるが、明治29(1896)年の六郷地震で大きな被害を受けた。白岩の地でおよそ130年間続いた、秋田藩で最初の本格的窯の煙は途絶えたが、白岩より出た陶工達が県内各地に窯を開き、白岩焼系統窯として受け継がれていく。

### 「指定の窯」

愛宕山下丘陵地の寺後地区に、古窯跡・イ窯跡・ロ窯跡・ホ窯跡がある。その西側平坦地の前郷地区にニ窯跡・ハ窯跡・吉重郎窯跡が点在している。



古窯跡は、松本運七が築いたといわれているが所在がはっきりしておらず、平成20年4月秋田大学工学資源学部地球資源学科の西谷教室が地磁気探査による所在確認に取り組んでいる。

イ・ロ窯は江戸時代後半(1780年代)から明治時代中頃にかけて、ハ・ホ・ニ・吉重郎窯は幕末から明治時代中頃から後半にかけて操業された。

この地域で焼かれた製品は、秋田県内は元より岩手県内にまで及んでいる。藩の管理下にあったことから優れたものは献上品に供されたともいう。

秋田県立博物館 主任専門員 庄内昭男



二瀧のすず：二瀧の刻印は、白岩焼の名工といわれた山手瀧治のものである。